

ごあいさつ

輝かしい新年を迎え、謹んで皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。昨年4月の県議会議員選挙で初当選をさせていただき、5月から県議会議員として活動をさせていただいてまいりました。

12月5日に初めての一般質問をいたしましたので、その概要を中心に、活動の一端をご報告いたします。

初質問に立たせていただきました！

質問項目

- (1) 福祉医療費助成制度について
- (2) BSE全頭検査の継続について
- (3) 伊賀地域の振興について

(1)福祉医療費助成制度について

○森野

県としての福祉医療費助成制度についての基本的な考え方と今回の見直しについての考え方を教えてください。

○健康福祉部長

県における福祉医療費助成制度は、国の医療保険制度を補完するものとして設置しており、今回の見直しに当たっては受益と負担の公平性を図るとともに、将来的に持続可能な制度とすることを基本に、県内29市町と相談して決定いたしました。

○森野

福祉医療費の補助金約33億円は一般会計歳出の0.5%に満たない額です。自己負担金を徴収しなくても県財政に大きな影響があるとは思えないのですがいかがでしょうか。

○健康福祉部長

福祉医療費の補助金は増加し続けており、今後、自己負担金は必要と考えています。

○森野

少子化が社会問題となっているなかで、2人目、3人目を産み育ててもらうためには小学校就学前と言わず、もっと対象年齢を引き上げるべきと考えますがいかがでしょうか。



○健康福祉部長

現在のところこれ以上拡大する考えはありません。次世代育成支援のための経済的支援策は国が行うべきと考えています。

○森野

現在、いったん窓口で立て替え払いをし、3ヶ月後に振り込みで戻される制度となっていますが、事務的な経費も相当かかっていますし、立て替え払いをなくしてほしいという声も多いので、改めるべきと考えますがいかがでしょうか。

○健康福祉部長

立て替え払いをなくすと医者にかかりやすくなるため医療費が増加し、保険財政を圧迫する恐れがありますので、今後も現状通り立て替え払い方式を続けたいと考えています。

(2)BSE全頭検査の継続について

○森野

食の安全安心に一段と関心が高まるなか、牛海綿状脳症(BSE)検査については、国では月齢20ヶ月以下の牛はリスクが低いとして検査対象から除外し、来年(2008年)7月末で国庫補助が打ち切れようとしています。三重県は松坂牛、伊賀牛といった有名ブランドがありますので、今後も全頭検査を継続すべきと考えますがいかがでしょうか。

○知事

月齢20ヶ月以下の牛に対する検査を廃止しても安全性に差がないとした評価が国の食品安全委員会から示されています。しかし、県民の食の安心や、松坂牛、伊賀牛といったブランドの信頼性を確保する観点から、県として来年(2008年)8月以降も全頭検査を継続する方向で検討を行っています。



今年度は、県議会において以下の仕事をしています。

- 教育警察常任委員
- 予算決算常任委員
- 子育て支援対策調査特別委員
- 広聴広報会議委員
- 地方財政制度調査検討会



11月13日の県議会出前講座の様子

県政に対するご意見、ご要望などがございましたら
お気軽にご連絡ください。

ホームページもご覧ください。 <http://www.morino.biz/shinji/>

森野真治事務所

〒518-0007

伊賀市服部町331-1

電話・FAX 0595(23)6060

Email: shinji@morino.biz

しんじ す
心耳を澄ますこと

皆様の声に心の耳を澄ませ、
県政へと届けてまいりたいと
いう思いを込めています。

(3)伊賀地域の振興について

○森野

2007度「一万人アンケート」によりますと、伊賀地域は3年ぶりに尾鷲・熊野に抜かれて住みやすさワースト1となりました。さらに今後の定住意向でも桑員地域から10ポイント以上引き離されてのワースト1であります。伊賀に住みにくいと感じている理由の上位3つは、医療体制、公共交通機関、道路の整備となっております。これらについて今後どのように取り組まれる予定ですか。

○健康福祉部長

これまでも医師不足解消のためにさまざまな努力をしてきましたが、今後は三重県医師修学資金貸与制度の抜本的な改正を図り、伊賀地域をはじめ、県内全域の医療体制の整備に向け、医師不足の深刻な診療科や、救急医療に従事する病院勤務医の確保を強力に推進してまいります。また、地域間の医療機能の格差解消をめざします。

○政策部長

学生や高齢者など移動手段を持たない方々にとっては公共交通の確保は非常に重大でありますので、鉄道の近代化やバスの維持についての支援、利用促進など公共交通機関の維持・整備に努めてきました。伊賀鉄道発足への支援、JR関西本線についての国やJR各社への要望、バス事業については、上野・名張線などの広域的な6路線、しらさぎ号などのコミュニティバス23路線について補助をしています。今後も地域と一体となって取り組んでいきたいと考えています。

○県土整備部長

伊賀地域の南北方向の幹線道路として国道368号と国道422号の2路線で整備を進めており、また、地域高規格道路である名神名阪連絡道路については国や滋賀県とともに調査を進めています。今後も引き続き早期完成に向けて取り組んでまいります。

○環境森林部長

伊賀コリドールロードは伊賀盆地の外周を回廊的に結ぶ総延長92kmの基幹道路で、そのうち45kmの農道区間について2009年度の完成を目指して鋭意努力してまいります。

○森野(残り時間がなくなったため以下要望のみ)

東海、東南海地震が警戒される中、災害に強い地域づくりが急務となっております。伊賀地域には私を含め約2,000名の消防団員がおりますが、サラリーマン団員の増加や定員割れを起こす地域などが増えてきており、今後の振興策が必要ですのでよろしく願いいたします。

また、川上ダムについてですが、昭和43年(1968年)に当時の三重県知事は岩倉峡を開削しないかわりに、川上ダムと上野遊水地をワンセットとして、上野北部の浸水地域の治水を行うことを決められました。遊水地に協力をされた方々や移転に協力いただいたダム水没地域の方々はもとより、地球温暖化等により集中的大規模な降雨災害が各地で起こっているなか、上野北部の浸水地域の方々からも早期完成に向けて強い要望がありますので、よろしく願いいたします。